

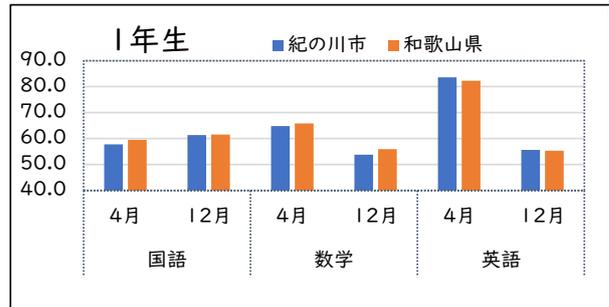
令和5年度和歌山県学習到達度調査【中学校】結果 概要 (R5.4.18/R5.12.7実施)

令和6年3月公表

○学年別・教科別平均正答率(※県平均を下回る箇所は朱書きしています。)

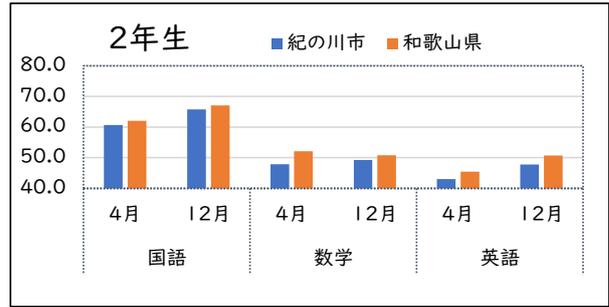
<1年生>

	国語		数学		英語	
	4月	12月	4月	12月	4月	12月
紀の川市	57.8	61.4	64.8	53.8	83.6	55.6
和歌山県	59.5	61.6	65.8	55.9	82.3	55.3
県比	-1.7	-0.2	-1.0	-2.1	1.3	0.3



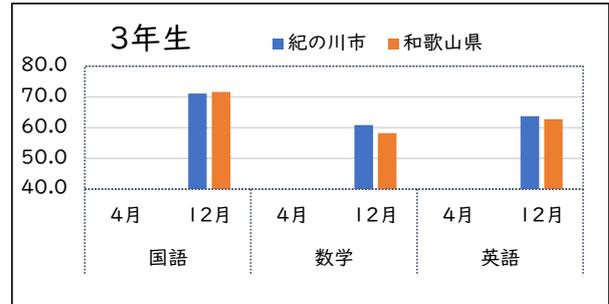
<2年生>

	国語		数学		英語	
	4月	12月	4月	12月	4月	12月
紀の川市	60.7	65.8	47.9	49.3	43.0	47.8
和歌山県	62.1	67.1	52.1	50.8	45.5	50.7
県比	-1.4	-1.3	-4.2	-1.5	-2.5	-2.9



<3年生>

	国語		数学		英語	
	4月	12月	4月	12月	4月	12月
紀の川市		71.1		60.8		63.7
和歌山県		71.6		58.2		62.7
県比		-0.5		2.6		1.0



*第3学年は、全国学力・学習状況調査にて国語・数学・英語の調査を実施したため、県の4月調査を実施していません。

○調査結果より

1年生の国語については、漢字の読み書き、文学的な文章の読み取りは着実に力がついており、記述式の問題にも粘り強く取り組んでいることが分かる。数学では、1次方程式に関する問題で数学的な表現を用いて説明できる力を付けたい。英語は、小学校において音で慣れ親しんできているので「聞くこと」はできているが、長文の読み取りや英作文を書くことにおいて課題がある。小学校で付けてきた力に新たに中学校で学んだことを蓄積させていきたい。

2年生の国語は、文章を読み取ること、読み取った内容を明確にして書くことに課題が見られる。数学は県平均との差を縮めてきているが、連立方程式を立式する、グラフを読み取る、数学的に説明することへの課題が大きいので、改善を図っていきたい。英語は、聞き取って内容を理解することはできている。しかし、聞き取って応答する、読み取って自分の考えを書くことに課題が見られる。

3年生の国語は、論理の展開を考えながら書くことや、合意形成に向けて考えを深めて書くことに課題がある。数学は因数分解や平方根などの計算力が定着しており、県平均を上回っている。英語は、リスニングや、読解、英作文などの領域の問題も県平均を上回った。

○今後の取り組み

全学年に共通していることとして知識の定着を測る基礎基本の問題は比較的正答率が高く、基礎的な内容は概ね定着していると言えますが、知識を活用して思考したり表現したりすることに課題があります。そのため知識の習得にはタブレットドリルを活用したり、本調査に付属する個別の補助教材を活用して補充学習を充実させたりするよう取り組みます。さらに授業時間では「学び方」に着目し、集団を活かした協働的な学習をとり入れ、知識の活用を中心とした授業改善に取り組みます。

また、学年によって得意・不得意の教科が異なることは当然ありますが、全体的に県の平均正答率を下回る教科が多いことから、全ての学年・教科において授業改善に取り組む必要があると考え、市が実施する学力向上研修をさらに充実させるよう、和歌山県教育センターとも連携して進めてまいります。

保護者の皆様には子供達の学習内容の定着を図るため、端末を活用した予習復習などの家庭学習に取り組むことができる環境づくりと学年×1時間を目安として家庭学習の時間確保へのご協力をお願いします。